

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308番2
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 8月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の事業所であると言う事。利用者様がいらされていると言うような意識では無く、自分の家で暮らしているのと同じような感覚で、ご近所の子供・お年寄り・散歩の方達と自然に話したり、声を掛け合える関係になれたらいいなと思ひ、地域に向けた夏祭りを開催しました。職員が一丸とならないと出来ないという事もあり、絆も深まったのではないかと思います。同じ地域密着の事業所の方達も手伝ってくださり、一事業所のイベントとしてはとても盛り上がったと思ひます。また計画の段階ではありますが、同じ地域密着型事業所として、合同の勉強会が出来たら良いなと思ひ準備をしています。秋には開催し、事業所間の絆が深まれば良いと考えます。勿論この勉強会は、地域の方々にも案内させて頂き、参加して頂けたら後に続いていける物と思ひますし、それが認知症の理解、グループホームのより深い理解へと繋がっていくと思ひます。地域に向けて頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経過し、地域のグループホームとして認識は深まり地域の方々からの差し入れなどをいただける関係ができあがっている。また、夏祭りの開催や掃除などの地域活動への参加は積極的に行い、ボランティアも来所するなどの実績は積みあがっている。さらに、利用者のきらりと輝いていた時代を思い出していただけるように、日々の生活の中で観察を基にして意見を出し合い、個々人に合った取組みを行っている。他に、利用者とのドライブや買い物など外出にも力を入れている。一般職員の研修にも力を注ぎ、町内の研修会に一般職員が交流も兼ねて出席している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 平成 28 年 8 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者が心身共に輝いていた時代を思い出し、再度残りの人生において、泣き笑いを共にし、輝ける生活がおくれる様、日々の生活の中で、何を望み、何をしたいのか、小さな事に気が付き、思いを察知し、職員全員が意見を出し合い、統一を図り、取り組み努力をしている。	
			(外部評価) 理念は玄関入り口や各ユニット内に飾られ、職員は日々確認できるようにになっている。利用者がきらりと輝いていた時代を理解するために、日々の会話の中で聞き取りを行い、事業所独自の書式にまとめて職員間で共有し、できることをしてもらったり、会話をして泣き笑いを職員と共にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 今年は2年ぶりに夏祭りを行い、地域の方も大勢来てくださった。また祭りの前の準備段階においても草刈り等の協力もあり、時折果物なども「おばあさん達に食べさせてあげてや」と持って来てくださる。月日の経過と共に少しずつ受け入れてもらっていると感じている。	
			(外部評価) 地域の一員として道づくりの草引き、地元の敬老会や集会所の集まりに参加したり、秋祭りの神輿の御旅所として協力をしている。近所の方々からは果物や海産物などの差し入れをいただくなど少しずつ交流はできている。近所を散歩する際の会話や日々の生活の中で挨拶や交流を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) カンファレンス・運営推進会議等で話し合いは行っているが、まだまだ対策を模索中であり、地域への貢献は出来ていない。見学に来られる方はおられ、認知症というものや支援の方法を地域の人々に理解して頂く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 夏祭りを行う時点で運営推進会議で報告すると、色々な意見や協力を得る事が出来た。また愛南警察や、消防署の参加をお願いし、高齢者の事故や事件の話。救急救命法の実技等も行った。</p> <p>(外部評価) 年6回実施し、町高齢者支援課、民生委員、区長や利用者家族などの出席もある。救急蘇生法や成年後見制度などの勉強会や避難訓練などと共に実施し、管理者は意見を頂くことを心がけている。会議においては質問や感想などを聞きとっているが、会議録の記載が漏れていることがある。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には、担当者の出席がある。何か問題や疑問が生じた時には、相談しその都度対応して頂いている。管理者の集まりには、町の担当者も参加し、徘徊対策について話し合ったり、愛南生き生き推進大会にも参加している。</p> <p>(外部評価) 町の高齢者支援課や地域包括支援センターから運営推進会議などで意見をいただき、報告や相談などを適宜行っている。また、家族のことで県の地方局に相談をすることもある。また、町主催の愛南いきいき推進大会にも参加し協力している。</p>	<p>運営推進会議に代表者以外の職員も参加し、直接意見を聞く工夫や、時間帯の調整で家族などの参加を増やす努力をすると共に、参加者の具体的職名や感想なども議事録に記載しておくこと、後々見返す時に役立つため、全職員による意見の聞き取りと議事録の記載内容充実を期待したい。</p> <p>介護保険に関する担当課だけではなく、福祉全体の担当課や学校との交流に関係する教育委員会、文化祭や地域の行事に関連する部署などに事業所と地域のつながりに関する相談を持ち掛けていくと、より地域に根ざした施設となることが考えられ、その活用を期待したい。</p>
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ防犯の為に玄関に施錠している。介護時や入浴時には身体の変化がないか観察し、少しの変化も気付く様に努めている。又ヒヤリや事故報告の出た事例については、カンファレンスで話し合い、防止策を挙げ、拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から身体拘束をしない方針を代表者が貫き、常に気を配っている。また、言葉による拘束も起こさないように十分留意しながら声かけを行うよう管理者は職員に伝えている。ヒヤリハットについてはカンファレンスで話し合い対応策を検討している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないと思い、ケアを行っている。カンファレンス等で、他所での事例等を取り上げ、虐待防止の意識づけを行っている。ただ親しくなった為に、言葉が馴れ馴れしくなっている事があり、気をつけないといけない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今年、地域包括支援センターの職員様に来て頂き、学ぶ事が出来た。聞きなれない言葉も多く、完全に理解出来たとは言えないが、少しは解ったのではないかと・・・と思っている。まだまだ活用できる状況では無く、これからも学んでいかないといけない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者と関わる際、小さな意見や不満、苦情に対して、耳を傾け、カンファレンス等で話し合い、問題解決にあたっている。利用者様にとって何が一番良い事であるか等も、家族の意見を伺い、要望に対して報告し、対応する努力をしている。 (外部評価) 職員は利用者とは日々かかわる中で小さな意見や不満などに耳を傾けて情報を集め、カンファレンスで話し合いを持っている。家族に対しては3カ月に一度ケアプランを説明する際にも意見を伺う努力をしている。また利用者の担当職員が変わった際にも家族に伝え、意見を言いやすい関係作りに努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスや個人面談において、職員の意見・提案などを聴いている。全ての意見を聞き入れる事は難しいが、建設的な意見は出来るだけ、取り入れる様にしている。 (外部評価) 管理者等は年2回の面談や現場で職員と共に仕事を行う中で意見を聞き、事業所内で検討したり意見を上層部に伝えるなどの工夫をしている。また、ユニットリーダーが意見をまとめて伝える工夫もなされ、意見を言いやすい雰囲気がある。さらに、申し送りノートを活用し伝達を浸透させる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価・リーダー評価・管理者評価・社長評価とそれぞれに面接を行い、仕事の努力・実績の把握をし、意欲の確認に努め、個々からの意見も聞き、今後の処遇・現場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に一回の勉強会は持続しており、法人としても研修会に参加させている。また個人でも、休みを利用して、研修会に参加するものも増えてきた。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者同志の会議・愛南町対策研修会等により、交流はある。しかし一部の職員であり、多くの職員が交流できる場があれば良いと思う。まだ計画の段階であるが、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所で、勉強会を開く予定にはしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 申し込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等からの情報を基に、ご本人に合、改めてご本人からのお話を聴き、要望や困っている事を聴き取れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設利用開始と共に、今までのサービスの継続確認をし、対応を相談。出来るだけ要望に沿える様に努めている。「またその時々々の心身の状態を把握できる様に、多くの声掛け等を行い、馴染の関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事はして頂き、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかける事によって、お互いが助け合う関係である事を意識している。又一緒に食事を摂ったり、外出等をして生活を共にすることにより、一つの家族として、安心して過ごして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 敬老会等への行事への参加や、介護計画への見直しの為の相談、日常的にも変化があれば、その都度連絡を取っている。面会に来られた時には、今の状態を報告し、希望や意見を伺い、共に本人を支える気持ちで行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望に沿った受診は勿論、理・美容院も希望があれば対応している。又自宅近くへのドライブや墓参り等も行った方もいるが、家族の拒否等で出来ない方もいる。面会等も含めて、家族へのアプローチが、関係継続の一つのカギと思う。 (外部評価) 遠方への墓参りや結婚式への参加、馴染みの美容室に出かけるなど家族との協力によって関係を途切れさせない支援があり、以前からのつながりを大切に考えている。また、自宅近くへのドライブなども行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話や態度から、利用者同士の関係を把握し、トラブル等が起きそうな時は、職員が介入し、大きくならない様に努めている。仲の良い方同志で、散歩やドライブに行き、楽しみを感じて頂き、孤立しそうな方には、職員がフォローし、良い関係が築いていける様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も病院入院中であれば、見舞いに行く職員も多い。地域で家族に会えば挨拶をし、相談されれば応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換は勿論、日々の関わりの中で得た情報を申し送りノートやアセスメント表に記録して皆で共有している。自分の思いが話せない方は、家族に聞いたり、何がその方にとって一番良いかを話し合いながら、ケアに生かしている。 (外部評価) 施設独自の評価シートを作り、利用者の希望を聞き取り書類にまとめる新たな取組みを始めたところであり、利用者の日々の記録や観察からアセスメントを作り上げようとしている。利用者の状況に関する申し送りノートには閲覧者のサインと日付を記入して確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントは勿論、入居後も知り得た情報は、個別の記録に記入し、カンファレンスで話あっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、どの方も大体同じだが、その中で休息の時間・散歩の時間等の個別性もあり、対応している。一般状態の観察・会話・バイタル測定等からスタッフ全員で、今の利用者個々の心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者が心身共に輝いていた時代を思い出し、再度残りの人生において、泣き笑いを共にし、輝ける生活がおくれる様、日々の生活の中で、何を望み、何をしたいのか、小さな事に気が付き、思いを察知し、職員全員が意見を出し合い、統一を図り、取り組み努力をしている。	
			(外部評価) モニタリングは3か月ごとに実施し、カンファレンスで話し合ったり普段の仕事の中で相談している。ケアプランも3か月ごとに作成しているが、内容の変化が少ない場合もある。また、ケアプランに沿った介護を行うためのコメントを管理者が記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子・会話・ケアの内容を記録に残せる様に指導しているが、職員個々のレベルに差がある。介護記録以外にも事故報告書等もカンファレンスで検討し、事故防止に役立てる様に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ柔軟な姿勢で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の理・美容院の利用、消防署の協力を得ての訓練等を行っている。近くのスーパーへの買い物、カラオケ喫茶でのカラオケ、花畑へのドライブ・散歩、近隣の神社へのお参り等を、職員と行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で、入居前からのかかりつけ医が良いと言わ れる方には、継続して受診援助を行っている。そうでない方 は、近くの協力医院に受診し、体調不良の相談や診察を受けて いる。なお受診時には職員が付き添い状態の説明等行ってい る。 (外部評価) かかりつけ医については、入居時に説明し利用者及び家族が選 べるようになってきている。協力医療機関が近隣にあり、特に主治 医がいない場合にはかかりつけ医としてお願いしている。ま た、訪問看護ステーションとの連携で看護サービスも提供でき るようになってきている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協働出来ており、日々情報を共有して、異常の早期発見・健康 管理に努めている。又、疾患・症状等の相談もあり、助言・指 導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連絡を取り、入院時には介護サマリーを提出し、 退院間際にはカンファレンスに参加し、退院に向けての支援を 行っている。また入院中は面会に行き、本人・家族との信頼関 係、病院関係者との関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族・本人の希望を確認し、家族との信頼関係が成り立って おれば、ターミナルに取り組んでいる。主治医を含め話し合 いをし、ターミナルプランを作成し、介護を行っている。経験も浅 く不安はあるが、きらりの職員皆と、家族、医師、看護師等の 多くの人達の協力のもと、安楽な最期を迎えられるように支援 している。 (外部評価) 開設後現在までに3名の看取り経験があり、管理者がカンファ レンスなどで指示を出し、訪問看護ステーションでフォローで きる体制をとっている。新人職員は看取り経験がないことが多 いため、内部研修や外部研修を行いスキルアップに努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルは作成している。救命救急訓練も消防署の方の指導のもと行っているが、実践力はどうと問題がある。繰り返しの訓練が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・地震等を想定した避難訓練を実施しているが、回数が少なく繰り返し行わないといけない。災害時の水・乾パン等は準備している。 (外部評価) 年2回消防訓練や地震を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で避難場所や経路について意見をいただき避難先については変更もしているが、避難完了までに時間がかかっている。今年度はスモークテントで煙からの避難を経験する予定である。また、災害用の備蓄は2週間程度分準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度に注意し、プライバシーの確保にも心掛けている。利用者一人一人の性格・生活歴等も対応には必要であり、情報は共有するように努めている。ただ親しくなった為に言葉使いが？と思う点や、配慮がかけて、排泄時等に、大きな声が出る事もあり、注意したい。 (外部評価) 写真や広報等に関する個人情報の取り扱いは入居時に同意を得ている。また、介護の場面において利用者の名前に「さん」を付けて尊厳に配慮した対応を心がけている。部屋のドアに関しては、夜間帯に開放した状態であることもある。	利用者観点で考えると、開放を望まない日や時間帯もあると考えられ、その時々状況や思いに応じて部屋のドアを開閉する対応を考える工夫も必要と思われる。職員のカンファレンスにおいて、適宜利用者の思いを確認したうえで部屋のドアの開放について検討することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が望みや思いを言える様な関係作りに努めている。言葉として意思表示できない方もいる。表情や動作から気持ちをくみ取る様に努めている。自己決定に於いても、出来ない方は家族に伺ったり、職員がその方にとって、ベストであろうと思う事を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、朝ゆっくりと眠る人もおれば、散髪に行きたいと言われ、空いていればお連れする時もある。出来るだけ本人の望みが優先出来る様に、声掛け等を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿った衣類の選択や購入、理美容院への外出、化粧品等の購入等の支援を行っている。またご自分で出来ない方の爪切りや整髪にも注意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おやつバイキングやランチバイキングを行ったり、誕生会のケーキ作りやたんさん饅頭作り等を職員と一緒に作られている。食事形態は、個々の状態に合わせ、お粥にしたり、キザミ・ミキサー等工夫し、喉詰り無く安全に摂取出来る様に努めている。	
			(外部評価) 栄養士が食事メニューを考えてはいるが、日々食事のメニューに関する意見を問いかけ、案に基づいて味付けや別メニューをすることも。利用者にも食事の下ごしらえを手伝ってもらうことで、利用者も日々の大切なこととして捉えている。食事形態も刻み食など状態に合わせて工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の時間や形態に於いても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を職員は理解・注意して、お茶ゼリー等も取り入れ、工夫・声掛けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉・他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科の受診を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、個々に応じたトイレの声掛け、パットの種類の変更を行っている。尿・便意が明確でない方でも時間を見て誘導すると、失敗が少なくなっている。	
			(外部評価) 利用者の排泄リズムを把握し、利用者に応じた排泄誘導を心がけている。緩下剤を使用したり、牛乳や果物の活用、腹部マッサージなど便秘解消に向けた取組みを行っていることで浣腸を使用することはない。利用者が立ち上がった時にトイレに誘導できるよう声をかけるなど、早めに排泄を促す対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあるが、食事内容の工夫をしたり、水分摂取・牛乳飲用を勧める等、薬だけに頼らない様に努めている。また散歩や腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 殆どの方は1回/2日の入浴を行っており、身体状況が低下されている方は、2回/週の入浴や清拭を行っている。拒否される方もいるが、無理強いせず、入浴事態が嫌にならない様に気をつけている。また入浴前には、必ずバイタル測定をし、安全に入浴出来る様に注意している。	
			(外部評価) 二日おきの入浴が基本であるが、その日の状態に応じて風呂の時間帯を変えたり、翌日に声をかけたりしている。入浴剤を用い利用者の入浴に対する気持ちを盛り上げるような工夫をし、風呂の苦手な人も含め利用者全員が入浴できている。また、体調に応じて清拭をすることもあり清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の心身の状態を把握し、寝具の種類や部屋の明るさ等を配慮し、気持ちよく眠れる様に気を付けている。日中も休みたい方は、居室やソファで休まれ、意志を伝えられない方には、職員が誘導し休息して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬効や副作用を理解し、投薬時には、名前・日付・時間(朝昼夜等)の再三の確認をし、服薬介助を行っている。薬効等の理解の為に、説明書を保管している。薬の変更時等は、受診ノートに記入し、情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた手伝いをして頂いている。希望される食べ物は家族と相談し、購入している。創作活動や歌を歌ったり、ドライブに行ったりと気分転換を図り、少しでも喜びのある日々を送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別またはグループでの外出支援を行っている。買い物・花見・ドライブ・外食・水族館や博物館の見学等々。個々の状況や希望に応じた外出の支援を行っている。家族様の協力を得る方もおり、嬉しそうな様子で出かけられる。 (外部評価) 買い物、外食、花見、水族館や博物館などへドライブするなど外出支援に力を入れている。また、家族の協力で墓参りなどの外出をしている利用者もいる。さらに、週に2～3回少人数ではあるが、職員が時間を作り近くにドライブに行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方がお金を持っていたり、事務所預かりにしている。預かりの分は、出納帳を付け必要時に見せている。お金の所持や使用の大切さを入所者が理解しているか?理解出来ていなくても持っているだけで安心している方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りができる。携帯電話を所有されている方もいる。また手紙を貰う方はいるが、書いて出す方はいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関やスロープには、季節の花を飾っている。リビングには、行事の写真等を掲示し、季節の壁画を飾っている。音や匂いで不快にならない様に注意している。南向きに大きな窓があり、陽射しは充分に入り、風も気持ちよく通っている。</p> <p>(外部評価) 事業所内には利用者が作った作品やイベントの写真などが飾られており、季節に関する飾りや芳香剤を置いたりソファや畳のスペースがあるなど、利用者がゆっくりとくつろげるよう努めている。利用者は思い思いの場所でテレビを観たり会話をするなどし楽しい時間を過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間の中で、一人になる事は難しい。リビングではそれぞれの居場所が出来ており、気の合った方同士でお話しされている。又レク・リハ・食事などの席や位置にも配慮し、トラブル無く過ごせる様に努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室備付品は、ベッド・エアコン・カーテンのみであり、他は自宅から使い慣れた物や愛着のある物を持って来られている。個々の居室はタンスや家族の写真・仏壇等があり、在宅からの生活が出来るだけ継続し、居室へ帰るとホットして一人の時間が過ごして頂ける様に努めている。</p> <p>(外部評価) 部屋にはベッドとエアコンが備え付けられており、自宅からなじみの道具を持ち込むこともできる。仏壇やたんすなど利用者馴染みの物が置かれるなど、居心地の良い空間である。また、居室は清潔に保たれており、風通しも良く過ごしやすい環境となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内部はバリアフリーで手摺が設置している。自力歩行の方や手引き歩行の方が利用されるのは勿論、立位や足上げのリハビリ時に車椅子利用者も使用している。手摺はトイレ内部にも設置し安全に使用できる様に配慮している。又浴室・トイレには呼び出しブザーも設置している。居室の入り口には名前だけでなく、写真や折り紙等を飾り、ご自分の居室と解る様に配慮している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308番2
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 8月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の事業所であると言う事。利用者様が入らされていると言うような意識では無く、自分の家で暮らしているのと同じような感覚で、ご近所の子供・お年寄り・散歩の方達と自然に話したり、声を掛け合える関係になれたらいいなと思ひ、地域に向けた夏祭りを開催しました。職員が一丸とならないと出来ないという事もあり、絆も深まったのではないかと思います。同じ地域密着の事業所の方達も手伝ってくださり、一事業所のイベントとしてはとても盛り上がったと思ひます。また計画の段階ではありますが、同じ地域密着型事業所として、合同の勉強会が出来たら良いなと思ひ準備をしています。秋には開催し、事業所間の絆が深まれば良いと考えます。勿論この勉強会は、地域の方々にも案内させて頂き、参加して頂けたら後に続いていける物と思ひますし、それが認知症の理解、グループホームのより深い理解へと繋がっていくと思ひます。地域に向けて頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経過し、地域のグループホームとして認識は深まり地域の方々からの差し入れなどをいただける関係ができあがっている。また、夏祭りの開催や掃除などの地域活動への参加は積極的に行い、ボランティアも来所するなどの実績は積みあがっている。さらに、利用者のきらりと輝いていた時代を思い出していただけるように、日々の生活の中で観察を基にして意見を出し合い、個々人に合った取組みを行っている。他に、利用者とのドライブや買い物など外出にも力を入れている。一般職員の研修にも力を注ぎ、町内の研修会に一般職員が交流も兼ねて出席している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) うみ

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日

平成28年8月5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者が心身共に輝いていた時代を思い出し、再度残りの人生において、泣き笑いを共にし、輝ける生活がおくれる様、日々の生活の中で、何を望み、何をしたいのか、小さな事に気が付き、思いを察知し、職員全員が意見を出し合い、統一を図り、取り組み努力をしている。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関入り口や各ユニット内に飾られ、職員は日々確認できるようになっている。利用者がきらりと輝いていた時代を理解するために、日々の会話の中で聞き取りを行い、事業所独自の書式にまとめて職員間で共有し、できることをしてもらったり、会話をして泣き笑いを職員と共にしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 今年は2年ぶりに夏祭りを行い、地域の方も大勢来てくださった。また祭りの前の準備段階においても草刈り等の協力もあり、時折果物なども「おばあさん達に食べさせてあげてや」と持って来てくださる。月日の経過と共に少しずつ受け入れてもらっていると感じている。</p> <p>(外部評価) 地域の一員として道づくりの草引き、地元の敬老会や集会所の集まりに参加したり、秋祭りの神輿の御旅所として協力をしている。近所の方々からは果物や海産物などの差し入れをいただくなど少しずつ交流はできている。近所を散歩する際の会話や日々の生活の中で挨拶や交流を心がけている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) カンファレンス・運営推進会議等で話し合いは行っているが、まだまだ対策を模索中であり、地域への貢献は出来ていない。見学に来られる方はおられ、認知症というものや支援の方法を地域の人々に理解して頂く努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 夏祭りを行う時点で運営推進会議で報告すると、色々な意見や協力を得る事が出来た。また愛南警察や、消防署の参加をお願いし、高齢者の事故や事件の話。救急救命法の実技等も行った。</p> <p>(外部評価) 年6回実施し、町高齢者支援課、民生委員、区長や利用者家族などの出席もある。救急蘇生法や成年後見制度などの勉強会や避難訓練などと共に実施し、管理者は意見を頂くことを心かけている。会議においては質問や感想などを聞きとっているが、会議録の記載が漏れていることがある。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には、担当者の出席がある。何か問題や疑問が生じた時には、相談しその都度対応して頂いている。管理者の集まりには、町の担当者も参加し、徘徊対策について話し合ったり、愛南生き生き推進大会にも参加している。</p> <p>(外部評価) 町の高齢者支援課や地域包括支援センターから運営推進会議などで意見をいただき、報告や相談などを適宜行っている。また、家族のことで県の地方局に相談をすることもある。また、町主催の愛南いきいき推進大会にも参加し協力している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ防犯の為に玄関に施錠している。介護時や入浴時には身体の変化がないか観察し、少しの変化も気付く様に努めている。又ヒヤリや事故報告の出た事例については、カンファレンスで話し合い、防止策を挙げ、拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から身体拘束をしない方針を代表者が貫き、常に気を配っている。また、言葉による拘束も起こさないように十分留意しながら声かけを行うよう管理者は職員に伝えている。ヒヤリハットについてはカンファレンスで話し合い対応策を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないと思い、ケアを行っている。カンファレンス等で、他所での事例等を取り上げ、虐待防止の意識づけを行っている。ただ親しくなった為に、言葉が馴れ馴れしくなっている事があり、気をつけないといけない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今年、地域包括支援センターの職員様に来て頂き、学ぶ事が出来た。聞きなれない言葉も多く、完全に理解出来たとは言えないが、少しは解ったのではないかと・・と思っている。まだまだ活用できる状況では無く、これからも学んでいかなければいけない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者に関わる際、小さな意見や不満、苦情に対して、耳を傾け、カンファレンス等で話し合い、問題解決にあたっている。利用者様にとって何が一番良い事であるか等も、家族の意見を伺い、要望に対して報告し、対応する努力をしている。 (外部評価) 職員は利用者と日々かかわる中で小さな意見や不満などに耳を傾けて情報を集め、カンファレンスで話し合いを持っている。家族に対しては3カ月に一度ケアプランを説明する際にも意見を伺う努力をしている。また利用者の担当職員が変わった際にも家族に伝え、意見を言いやすい関係作りに努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスや個人面談において、職員の意見・提案などを聴いている。全ての意見を聞き入れる事は難しいが、建設的な意見は出来るだけ、取り入れる様にしている。 (外部評価) 管理者等は年2回の面談や現場で職員と共に仕事を行う中で意見を聞き、事業所内で検討したり意見を上層部に伝えるなどの工夫をしている。また、ユニットリーダーが意見をまとめて伝える工夫もなされ、意見を言いやすい雰囲気がある。さらに、申し送りノートを活用し伝達を浸透させる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価・リーダー評価・管理者評価・社長評価とそれぞれに面接を行い、仕事の努力・実績の把握をし、意欲の確認に努め、個々からの意見も聞き、今後の処遇・現場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に一回の勉強会は持続しており、法人としても研修会に参加させている。また個人でも、休みを利用して、研修会に参加するものも増えてきた。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者同志の会議・愛南町対策研修会等により、交流はある。しかし一部の職員であり、多くの職員が交流できる場があれば良いと思う。まだ計画の段階であるが、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所で、勉強会を開く予定にはしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 申し込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等からの情報を基に、ご本人に合、改めてご本人からのお話を聴き、要望や困っている事を聴き取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設利用開始と共に、今までのサービスの継続確認をし、対応を相談。出来るだけ要望に沿える様に努めている。「またその時々」の心身の状態を把握できる様に、多くの声掛け等を行い、馴染の関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事はして頂き、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかける事によって、お互いが助け合う関係である事を意識している。又一緒に食事を摂ったり、外出等をして生活を共にすることにより、一つの家族として、安心して過ごして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 敬老会等への行事への参加や、介護計画への見直しの為の相談、日常的にも変化があれば、その都度連絡を取っている。面会に来られた時には、今の状態を報告し、希望や意見を伺い、共に本人を支える気持ちで行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望に沿った受診は勿論、理・美容院も希望があれば対応している。又自宅近くへのドライブや墓参り等も行った方もいるが、家族の拒否等で出来ない方もいる。面会等も含めて、家族へのアプローチが、関係継続の一つのカギと思う。 (外部評価) 遠方への墓参りや結婚式への参加、馴染みの美容室に出かけるなど家族との協力によって関係を途切れさせない支援があり、以前からのつながりを大切に考えている。また、自宅近くへのドライブなども行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話や態度から、利用者同士の関係を把握し、トラブル等が起きそうな時は、職員が介入し、大きくならない様に努めている。仲の良い方同志で、散歩やドライブに行き、楽しみを感じて頂き、孤立しそうな方には、職員がフォローし、良い関係が築いていける様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も病院入院中であれば、見舞いに行く職員も多い。地域で家族に会えば挨拶をし、相談されれば応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換は勿論、日々の関わりの中で得た情報を申し送りノートやアセスメント表に記録して皆で共有している。自分の思いが話せない方は、家族に聞いたり、何がその方にとって一番良いかを話し合いながら、ケアに生かしている。 (外部評価) 施設独自の評価シートを作り、利用者の希望を聞き取り書類にまとめる新たな取組みを始めたところであり、利用者の日々の記録や観察からアセスメントを作り上げようとしている。利用者の状況に関する申し送りノートには閲覧者のサインと日付を記入して確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントは勿論、入居後も知り得た情報は、個別の記録に記入し、カンファレンスで話あっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、どの方も大体同じだが、その中で休息の時間・散歩の時間等の個別性もあり、対応している。一般状態の観察・会話・バイタル測定等からスタッフ全員で、今の利用者個々の心身の状態の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、担当者はモニタリングを行い、三か月に一回それをまとめ、プランの見直しを行っている。見直し前には、家族・本人に希望や意見を聴き、ADL等も検討し、皆で話し合っ、プランを立案している。	
			(外部評価) モニタリングは3か月ごとに実施し、カンファレンスで話し合ったり普段の仕事の中で相談している。ケアプランも3か月ごとに作成しているが、内容の変化が少ない場合もある。また、ケアプランに沿った介護を行うためのコメントを管理者が記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子・会話・ケアの内容を記録に残せる様に指導しているが、職員個々のレベルに差がある。介護記録以外にも事故報告書等もカンファレンスで検討し、事故防止に役立てる様に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ柔軟な姿勢で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の理・美容院の利用、消防署の協力を得ての訓練等を行っている。近くのスーパーへの買い物、カラオケ喫茶でのカラオケ、花畑へのドライブ・散歩、近隣の神社へのお参り等を、職員と行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で、入居前からのかかりつけ医が良いと言われる 方には、継続して受診援助を行っている。そうでない方は、近くの 協力医院に受診し、体調不良の相談や診察を受けている。なお受診 時には職員が付き添い状態の説明等を行っている。 (外部評価) かかりつけ医については、入居時に説明し利用者及び家族が選べる ようになっている。協力医療機関が近隣にあり、特に主治医がい ない場合にはかかりつけ医としてお願いしている。また、訪問看護ス テーションとの連携で看護サービスも提供できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協働出来ており、日々情報を共有して、異常の早期発見・健康管理 に努めている。又、疾患・症状等の相談もあり、助言・指導してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 医療機関との連絡を取り、入院時には介護サマリーを提出し、退院 間際にはカンファレンスに参加し、退院に向けての支援を行ってい る。また入院中は面会に行き、本人・家族との信頼関係、病院関係 者との関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族・本人の希望を確認し、家族との信頼関係が成り立っておれ ば、ターミナルに取り組んでいる。主治医を含め話し合いをし、 ターミナルプランを作成し、介護を行っている。経験も浅く不安は あるが、きりりの職員皆と、家族、医師、看護師等の多くの人達の 協力のもと、安楽な最期を迎えられるように支援している。 (外部評価) 開設後現在までに3名の看取り経験があり、管理者がカンファレン スなどで指示を出し、訪問看護ステーションでフォローできる体制 をとっている。新人職員は看取り経験がないことが多いため、内部 研修や外部研修を行いスキルアップに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルは作成している。救命救急訓練も消防署の方の指導のもと行っているが、実践力はあるという問題がある。繰り返しの訓練が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・地震等を想定した避難訓練を実施しているが、回数が少なく繰り返し行わないといけない。災害時の水・乾パン等は準備している。 (外部評価) 年2回消防訓練や地震を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で避難場所や経路について意見をいただき避難先については変更もしているが、避難完了までに時間がかかっている。今年度はスモークテントで煙からの避難を経験する予定である。また、災害用の備蓄は2週間程度分準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度に注意し、プライバシーの確保にも心掛けている。利用者一人一人の性格・生活歴等も対応には必要であり、情報は共有するように努めている。ただ親しくなった為に言葉使いが？と思う点や、配慮がかけて、排泄時等に、大きな声が出る事もあり、注意したい。 (外部評価) 写真や広報等に関する個人情報の取り扱いは入居時に同意を得ている。また、介護の場面において利用者の名前に「さん」を付けて尊厳に配慮した対応を心がけている。部屋のドアに関しては、夜間帯に開放した状態であることもある。	利用者観点で考えると、開放を望まない日や時間帯もあると考えられ、その時々状況や思いに応じて部屋のドアを開閉する対応を考える工夫も必要と思われる。職員のカンファレンスにおいて、適宜利用者の思いを確認したうえで部屋のドアの開放について検討することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が望みや思いを言える様な関係作りに努めている。言葉としてみせられない方もいる。表情や動作から気持ちをくみ取る様に努めている。自己決定に於いても、出来ない方は家族に伺ったり、職員がその方にとって、ベストであろうと思う事を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、朝ゆつくりと眠る人もおれば、散髪に行きたいと言われ、空いていればお連れする時もある。出来るだけ本人の望みが優先出来る様に、声掛け等を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿った衣類の選択や購入、理美容院への外出、化粧品の購入等の支援を行っている。またご自分で出来ない方の爪切りや整髪にも注意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おやつバイキングやランチバイキングを行ったり、誕生会のケーキ作りやたんさん饅頭作り等を職員と一緒に作られている。食事形態は、個々の状態に合わせ、お粥にしたり、キザミ・ミキサー等工夫し、喉詰り無く安全に摂取出来る様に努めている。	
			(外部評価) 栄養士が食事メニューを考えてはいるが、日々食事のメニューに関する意見を問ひかけ、案に基づいて味付けや別メニューをすることもある。利用者にも食事の下ごしらえを手伝ってもらうことで、利用者も日々の大切なこととして捉えている。食事形態も刻み食など状態に合わせて工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の時間や形態に於いても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を職員は理解・注意して、お茶ゼリー等も取り入れ、工夫・声掛けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉・他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科の受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、個々に応じたトイレの声掛け、パットの種類の変更を行っている。尿・便意が明確でない方でも時間を見て誘導すると、失敗が少なくなっている。	
			(外部評価) 利用者の排泄リズムを把握し、利用者に応じた排泄誘導を心がけている。緩下剤を使用したり、牛乳や果物の活用、腹部マッサージなど便秘解消に向けた取組みを行っていることで浣腸を使用することはない。利用者が立ち上がった時にトイレに誘導できるよう声をかけるなど、早めに排泄を促す対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあるが、食事内容の工夫をしたり、水分摂取・牛乳飲用を勧める等、薬だけに頼らない様に努めている。また散歩や腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 殆どの方は1回/2日の入浴を行っており、身体状況が低下されている方は、2回/週の入浴や清拭を行っている。拒否される方もいるが、無理強いせず、入浴事態が嫌にならない様に気をつけている。また入浴前には、必ずバイタル測定をし、安全に入浴出来る様に注意している。	
			(外部評価) 二日おきの入浴が基本であるが、その日の状態に応じて風呂の時間帯を変えたり、翌日に声をかけたりしている。入浴剤を用い利用者の入浴に対する気持ちを盛り上げるような工夫をし、風呂の苦手な人も含め利用者全員が入浴できている。また、体調に応じて清拭をすることもあり清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の心身の状態を把握し、寝具の種類や部屋の明るさ等を配慮し、気持ちよく眠れる様に気を付けている。日中も休みたい方は、居室やソファで休まれ、意志を伝えられない方には、職員が誘導し休息して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬効や副作用を理解し、投薬時には、名前・日付・時間（朝昼夜等）の再三の確認をし、服薬介助を行っている。薬効等の理解の為に、説明書を保管している。薬の変更時等は、受診ノートに記入し、情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた手伝いをして頂いている。希望される食べ物は家族と相談し、購入している。創作活動や歌を歌ったり、ドライブに行ったりと気分転換を図り、少しでも喜びのある日々を送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別またはグループでの外出支援を行っている。買い物・花見・ドライブ・外食・水族館や博物館の見学等々。個々の状況や希望に応じた外出の支援を行っている。家族様の協力を得る方もおり、嬉しそうな様子で出かけられる。	
			(外部評価) 買い物、外食、花見、水族館や博物館などへドライブするなど外出支援に力を入れている。また、家族の協力で墓参りなどの外出をしている利用者もいる。さらに、週に2～3回少人数ではあるが、職員が時間を作り近くにドライブに行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方がお金を持っていたり、事務所預かりにしている。預かりの分は、出納帳を付け必要時に見せている。お金の所持や使用の大切さを入所者が理解しているか？理解出来ていなくても持っているだけで安心している方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやりとりが出来る。携帯電話を所有されている方もいる。また手紙を貰う方はいるが、書いて出す方はいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関やスロープには、季節の花を飾っている。リビングには、行事の写真等を掲示し、季節の壁画を飾っている。音や匂いで不快にならない様に注意している。南向きに大きな窓があり、陽射しは充分に入り、風も気持ちよく通っている。</p> <p>(外部評価) 事業所内には利用者が作った作品やイベントの写真などが飾られており、季節に関する飾りや芳香剤を置いたりソファや畳のスペースがあるなど、利用者がゆっくりとくつろげるよう努めている。利用者は思い思いの場所でテレビを観たり会話をするなど楽しい時間を過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間の中で、一人になる事は難しい。リビングではそれぞれの居場所が出来ており、気の合った方同志でお話されている。又レク・リハ・食事などの席や位置にも配慮し、トラブル無く過ごせる様に努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室備付品は、ベッド・エアコン・カーテンのみであり、他は自宅から使い慣れた物や愛着のある物を持って来られている。個々の居室はタンスや家族の写真・仏壇等があり、在宅からの生活が出来るだけ継続し、居室へ帰るとホッとして一人の時間が過ごして頂ける様に努めている。</p> <p>(外部評価) 部屋にはベッドとエアコンが備え付けられており、自宅からなじみの道具を持ち込むこともできる。仏壇やたんすなど利用者馴染みの物が置かれるなど、居心地の良い空間である。また、居室は清潔に保たれており、風通しも良く過ごしやすい環境となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内部はバリアフリーで手摺が設置している。自力歩行の方や手引き歩行の方が利用されるのは勿論、立位や足上げのリハビリ時に車椅子利用者も使用している。手摺はトイレ内部にも設置し安全に使用できる様に配慮している。又浴室・トイレには呼び出しブザーも設置している。居室の入り口には名前だけでなく、写真や折り紙等を飾り、ご自分の居室と解る様に配慮している。</p>	